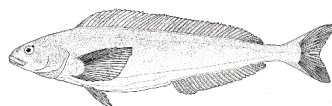


10. ホツケ

主な漁業と漁期
 沖合底びき網：9～翌6月
 沿岸漁業（まき網、底建網、
 刺し網、えびごき網）：3～11月



道央日本海～オホーツク海海域

生態

◆分布・回遊

幼魚は、春には日本海～間宮海峡、夏には日本海に加え、オホーツク海の表層に分布します。秋には、日本海北部、オホーツク海南西部の陸棚上に着底し、翌春には北見、利尻・礼文町周辺、武蔵堆などに分布します。その後、オホーツク海の群れの大部分は、日本海へ移動します。

◆産卵期・産卵場

◎産卵期：盛期は10～12月頃で、北で早く、南で遅い傾向があります。

◎産卵場：利尻・礼文島、武蔵堆、積丹半島や寿都湾周辺など、日本海沿岸の岩礁地帯に形成されます。メスは岩礁の窪みに卵を数回に分けて産みつけて、ふ化までオスが保護します。

◆成長・成熟

	体長(mm)		体重(g)	
	オス	メス	オス	メス
1歳	206	205	107	105
2歳	251	254	220	223
3歳	275	282	304	323
4歳	285	296	347	381

*) 高嶋ら (2013) より
 *) 加齢の基準日：1月1日

◎成熟年齢

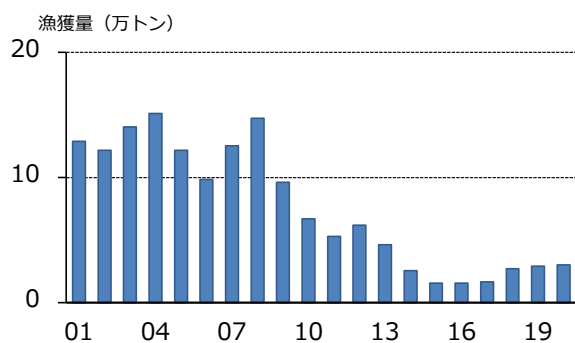
メスは0歳では成熟せず、1歳では大型個体から成熟し、2歳以上でほぼ全てが成熟します。

資源評価

[評価年] 1月～12月

[資源量の指標] 0歳以上の資源重量

2020年度の漁獲量は約3.0万トンで、3年連続で増加しました。増加の要因は、豊度の高い2017、2019年級群が漁獲加入したためです。2020年度の資源水準は低水準と判断され、翌年にかけての動向は各種調査結果から後続の年級群豊度が低いとみられることから、横ばいと判断されました。近年は回復の兆しが見られるものの未だ低水準にあると考えられます。

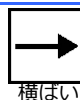


2020年度
の水準



低水準

2021年度
の動向



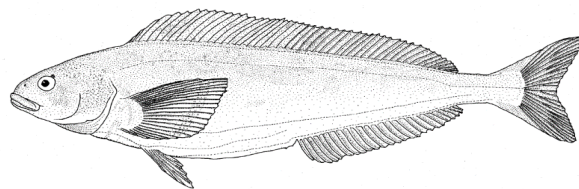
横ばい

※道総研が受託している国の資源評価調査のデータも利用して評価しています。

資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

- 許可の制限条件、漁業権行使規則等で操業期間、漁具の制限等を定めています。
- 親魚や未成魚保護のため、2012年下半年から継続して、漁獲努力量等を自主的に3割程度削減する取り組みを行っています。さらに、2018年以降は2017年級や2019年級に対する緊急的な保護対策が実施され、以降、強化された取組みが継続されています。



☆自主的規制による漁獲強度の低下と高豊度年級の発生により資源回復の兆しが見られますが、未だ資源水準は低水準にあるため、若齢魚に対する漁獲圧の低減を継続する必要があります。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
 北海道立総合研究機構 中央水産試験場資源管理部

電話 011-204-5477

電話 0135-23-8707